

第 68 回西日本生理学会

日 時：平成 29 年 10 月 6 日（金）・7 日（土）

場 所：福岡大学中央図書館 多目的ホール

当番幹事：福岡大学医学部生理学 井上隆司

参加者：67 名

演題数：27 題

第 68 回西日本生理学会は、福岡大学医学部生理学教室を当番校とし、平成 29 年 10 月 6、7 日の両日に亘り、福岡大学中央図書館多目的ホールにて開催された。例年に比べ若干少ない 67 名の参加ではあったが、総演題数 27 題（内訳：一般演題 21 題、奨励賞審査対象演題 4 題、学部学生演題 2 題）全ての口演を一会場で行い、活発な発表と討議が行われた。

学会の冒頭では、37 歳以下の若手研究者や学生を対象とした「日本生理学会九州奨励賞」の審査セッションが開かれ、桑木委員長を始めとする 5 名の審査委員の厳正なる審査の結果、内田邦敏氏（福岡歯科大細胞分子生物分子機能制御学）の「人工再構成系を用いた温度感受性 TRP チャネルの機能解析」と榊田光倫氏の「tRNA 修飾異常による神経障害の分子機構に関する研究」が見事受賞となった。また 1 日目の演題終了に引き続き、約 50 名の参加者を得て、和やかな雰囲気の中に懇親会が行われた。

2 日目の学部生セッションでは、西九州大学（健康栄養部健康栄養科）の東真里さんが、「三角食べによる食後血糖値上昇抑制効果について」について、また長崎大学（医学部分子生理学）の下河舞子さんが、「ブルガダ症候群の予後予測を目指す変異心筋 Na チャネルの機能解析」について、それぞれ大変質の高い発表を行い、これに感銘を受けた聴衆より多くの質問があった。

評議委員会、総会では、第 69 回の担当校である九州歯科大の小野堅太郎先生より、時折ユーモアを交えながら熱のこもったご紹介があった。また、臨時参加された FAOPS2019 大会長の鍋倉淳一先生より、この国際学会への強力な支援の呼びかけがあった。

本地方会は、参加者数が 100 名に満たない小規模な学術集会だが、幅広い生理学諸分野における最先端の研究に一時に触れることのできる貴重な機会であり、また互いに顔の見えるアットホームな雰囲気の中、若手、中堅、そしてベテランの研究者が忌憚なく意見を交わすことのできる、今では希少価値となりつつある機会でもある。今後、この会に継続的に新たなメンバーが加わり、その開催の意義が増していくことを祈念して止まない。

最後に、ご多忙中、遠路ご参会頂いた皆様に心から感謝の意を表し、本学会の最終報告としたい。

（文責：井上隆司）

地方会抄録はウェブページ <http://physiology.jp/nisseishi/> に掲載させていただくことになりました。（Pt 2）p. 27～p. 35 をご覧ください。